

令和 4 年度 県立鹿島高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像		◇ 6年間を見通した教育実践をととして、確かな学力を育むことのできる学校 ◇ 様々な人々との交流を通じて、豊かな人間性とコミュニケーション能力を育むことのできる学校 ◇ 文武両道の精神のもと、心身の健全な発達を育むことのできる学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
開校2年目を迎え生徒数も増え、学校全体に活気が出てきた。しかし、コロナ禍で予定していた学校行事のほとんどが変更や中止となり、一昨年同様前例のない状況下での学校運営を余儀なくされた。今年度は開校3年度となり生徒数が100名を越え、より学年間や教員間での綿密な意思疎通が必要となる。ICTを有効に活用し、授業や働き方に工夫を凝らしながら、生徒も教職員もさらなるレベルアップを図れるよう日々努力を積み重ねていきたい。		学力向上	生徒の学力向上に努める。そのために、学習指導の充実を図り、手段としてICT機器の効果的な活用に取り組む。		A
		ICT教育の充実	県から1人一台貸与されているChromebookを効果的に活用し、Google ClassroomやClassi等の学習支援アプリを活用した学習スタイルを確立させていく。		A
		基本的生活習慣の確立	学校全体として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。		B
		探究学習の推進	令和2年度開校の5校と令和4年度開校の2校の中高一貫教育校による連携や本校独自の取組など、探究学習の方法を実践しながら確立していく。		A
		コンプライアンスの徹底（「たいせつです」運動）及び働き方改革の推進	「たいせつです」運動（体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止）の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規律の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国 語	基礎・基本の確実な習得	小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	A	さらなる基礎力定着の指導。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けさせる。	A		読解や演習を重ね、論理的思考と情緒的感性を向上させる
	個に応じた指導	授業観察・課題提出・小テスト等で生徒の学習状況や理解度を把握して、個に応じた指導を行う。	A		添削指導などを通し苦手意識を減らし得意分野を伸ばす。
社 会	基礎・基本の確実な習得	テキスト・プリント・小テストなどを活用し、基礎学力の定着を図る。	A	A	小テスト等の回数を増やす。
		ICT機器を活用し、学習活動の工夫を図る。	A		今後も継続して活用する。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	社会的事象を、人間の営みと関連付けたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりする能力を身に付けさせる。	A		授業の中で課題解決的な学習を定期的に取り入れる。
	主体性の育成	調べ学習の機会や、発表の場を設けて、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。	B		調べ学習や発表の時間を十分に取れるよう、カリキュラム

別紙様式 2 (中)

					マネジメントを工夫する。
数 学	基礎・基本の確実な習得	課題を精選し、興味をもって取り組めるようにすることと、振り返りを重視し、学習に対する自己調整力を向上させる。	A	A	単元末テストを有効に活用し、基礎・基本が定着するまで粘り強く指導する。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	他者の意見を ICT を活用して可視化し、多角的なものの見方ができるようにするとともに、発表の機会を増やしアウトプットにより更に深く理解できるように促す。	A		利用の場面では特にグループ活動を多く取り入れ、思考力を向上させる。
	個に応じた指導	希望制による習熟度別学習を実施し、きめ細やかな指導を行う。	B		習熟度別が実施できるようにする。
理 科	基礎・基本の確実な習得	実験や ICT 機器の積極的な活用など生徒が主体的に活動する機会を増やし、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせることで、学習の確実な習得を図る。	A	A	ICT を活用して定着を図る。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	自然の事物・現象を科学的な視点で捉え、比較したり・関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えさせる。	A		探究的な学習を進める。
	「科学教育」の推進	学校外部の施設訪問や講演な等を通じて生徒の興味・関心を促し、視野を広げさせる。	A		外部講師にと連携した特別理科授業などの充実を図る。
保健体育	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	運動やスポーツの価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上が果たす役割を理解し、自己の適性等に応じた多様な関わり方と関連付けさせる。	B	A	より深い学びにつながるように指導する。
	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解する	様々な運動に取り組み、各種運動の基礎・基本技能の定着を目指す。	A		継続性を持たせる。
		運動における競争や協働の経験を通して、公正安全に取り組む態度を育成する。	A		怪我の予防を徹底する。
	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上	健康の保持増進と体力向上を目指し、日常的に計画的に運動に取り組む態度を育成する。	B		自主的に取り組むきっかけを与える指導をする。
		現代の健康課題を明確に捉え、健康増進のための知識・手段を身に付けさせる。	A		新たな情報も含めて知識を高められるよう指導する。
芸術 (音楽・美術)	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情・生活や社、伝統や文化などと関連付けさせる。(音楽)	A	A	
		感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりださせる。(美術)	A		感性や想像力を最大限生かす制作活動のできる題材を設定する。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の持つ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう工夫する。	A		今後も幅広い教材を取り上げる。
		生活を豊かにするための創造活動を重視し、基礎的な資質・能力を育成する。	A		生徒にとって身近なものから芸術への興味を広げていく。
	我が国の伝統文化や諸外国の芸術・文化についての関心や理	日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や考え方など発展的な学習を行う。(音楽)			
		鑑賞や製作活動を通して日本の伝統美術の独自性を考察させる。(美術)	A		今後も継続して題材に取り上

別紙様式 2 (中)

	解の探究				げる。
		それぞれの分野の歴史・背景・多様性について考察する場の設定・教材の工夫に努める。	A		鑑賞活動をより充実させていく。
外国語 (英語)	基礎・基本の確実な定着	T2 体制や少人数制をとり授業中の積極的な声かけを行うとともに、課題の点検、小テスト、スピーチ等を通して生徒の理解度を把握する。必要に応じて補習等を企画する。	A	A	日々の小テストやパフォーマンス評価を今後も継続する。
		具体的な学習サイクルを示し、家庭学習の定着を図る。	B	A	次年度は具体的に家庭学習で行う内容をリスト化していく。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	目的・場面・状況に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築する。	A		英語を使う場面を多く設定し、アウトプットの量を増やす。
	英語力のさらなる向上	ALT とのコミュニケーションを活動を通して、ネイティブの英語に触れる機会を増やす。	A		ALT 主導の帯活動を今後も継続する。
		ICT 機器・アプリを積極的に活用することで 5 領域の英語力をバランスよく身に付けさせる。	A		Writing や Speaking の指導で今後も積極的に使用する。
		英検 IBA や英検等の受験結果を分析し、実態に応じた授業計画を立てる。	B		外部試験を基にした習熟度別のクラスを実施していく。
技術・家庭	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化させる。(技術)	B	B	生徒の実態を把握し、身近な題材を用いて授業を行う。
		家庭分野で学習対象とされている生活事象を、「協力・協働、健康・快適、安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築」等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫させる。(家庭)	A	A	生徒の実態に応じて、学習活動を適切に設定し、授業を行う。
	生活に必要な知識と実習・実験の充実	実習・実験を通して技術の定着を図り、生涯にわたって自立した生活を創造できるようにする。	A		実習・実験を充実させ、基礎技能を生活で活かせるよう指導する。
教務	中高一貫教育校の運営の推進	グランドデザインを基に魅力ある教育課程を編成し、高校との円滑な連携に尽力する。	A	A	中高連携できる学校行事を検討する。
	授業スタイルの確立	6 年間を見通した学校としての授業スタイルを確立し、充実した学習環境を提供する。	B		学校としての授業スタイルを確立する。
	授業時間の確保と行事の調整	計画的に行事を行えるよう調整するとともに、授業時間の確保に努める。	A		引き続き授業時間確保を優先する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A	B	生徒自らがルールを守る意欲を持てるような機会を作りたい。
		集団生活の中でルールを遵守する精神の育成に努める。	B		
	交通安全教育の推進	講演会の実施や校外指導等を通じて、交通安全教育を行い、事故防止に努める。	A		

別紙様式 2 (中)

	情報モラルの育成	情報活用能力の育成を図ると同時に情報モラルの育成に努める。	B		情報モラルを高める指導を増やしたい。
	人権尊重の精神の育成	集会や道德の時間等様々な時間を使い、命の尊さについて考えさせるとともに、偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A		生命の大切さを考える指導をする。
進路指導	適切な進路情報の提供	定期的な進路資料の作成・配付、面談時の資料提供等を行う。	A	B	論点が明確な資料の作成
		中学3年間、高校を含めた6年間を見通した進路指導を計画・実施する。	B		中高の連携の機会を増やす。
	計画的な進路指導の実現	学年・教科と連携して、模試・検定を実施、サポートし、生徒実態把握やキャリア形成に努める。	B		キャリアに視点を置いた講話などを増やす
	探究学習と連動した進路指導の実現	インターンシップや体験授業等、探究学習と連動したキャリア教育を実施していく。	B		連携の機会を増やす。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒による主体的な生徒会活動が行われるように支援する。	A	A	今後も生徒主体の異学年交流を実施していく。
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A		精選した部活動数で、きちんと管理する。
	ホームルーム活動の充実	キャリアパスポートや手帳を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにさせる。	A		生徒の成長を見取り、面談等の場面で保護者に伝えていく。
	学校行事の充実	生徒が中高で連携して、学校行事等の企画運営が進められるよう支援する。	A		来年度は中高合同行事である体育祭を成功させる。
図書視聴覚	図書館の環境整備や広報活動	高校と連携し、生徒が本に親しめる利用しやすい環境づくりを行う。	A	A	ブックカフェのさらなる充実
	生徒の読書意欲の向上を図る	生徒図書委員による活動を支援し、生徒全体の読書意欲向上を図る。	B		生徒の手による活動の増加。
渉外	PTA 活動への協力	高校の PTA に協力して PTA 総会などの各種事業を推進する。	A	A	保護者への連絡等をスムーズにできた。
	スクールバスの円滑な運営	スクールバスの定期券発行から定期券販売など円滑に実施する。	A		ミスなく円滑に集金等を実施できた。
保健厚生	校内環境の整備	校内の施設整備の定期的な安全点検を行い、管理徹底に努める。	A	A	年2回実施した。
	環境美化意識の高揚	ゴミの分別処理やワックスがけなど校内美化に務める。	A		年1回実施した。
	防災・防犯訓練の実施	防災避難訓練を計画的に実施し、災害時の対策を徹底する。	A		年2回実施した。
教育相談	困り感を持つ生徒に対する支援	生徒指導部等と連携し、困り感を持つ生徒を把握しSCや巡回相談などにつなげ、必要な支援を行う。	B	B	他所との連携を深めていきたい。
情報	生徒情報管理の徹底	Google Workspace for Education (Classroom など)、Classi、Benesse ハイスクールオンライン等の生徒情報の管理・更新を行う。	A	A	引き続き適切な管理を行う。
	ICT 機器の整備・管理・更新	ICT 機器の整備・管理・更新等を適切に行い、ICT 教育が円滑に行えるようにする。	A		ICT 機器の充実を図る。
	校務支援システムの運営	県立学校統合型校務支援システムの適切な管理・運営を行う。	A		適切な成績管理を継続する。
	働き方改革の推進	文書や教材などを共有することで分担し業務の平準化をめざす。	B		分担を進めていく。

別紙様式 2 (中)

広報	中高連携した企画運営	中高職員で連携をし、保護者、小学生にとって有益な情報を発信する。	A	A	説明会等を引き続き実施。
	積極的な情報発信	ホームページの運営を通じて適切に管理する。 Classi を活用して、必要な情報を生徒や保護者に発信していく。	A		ホームページの更新や Classi の活用の継続。
	広報活動の刷新	スクールガイド、クリアファイル、ポスターを製作し、地域に見える広報活動を行う。	A		次年度も作成したい。
		地域や保護者と情報共有できるように刊行物の配布等を行う。	B		鹿苑だよりをもっと発行したい。
給食（食育）	正しい食事のあり方や望ましい食習慣の育成	衛生面に配慮し、食前の手洗い・消毒を徹底させる。	A	B	さらなる衛生指導の徹底。
		食事に対する正しい知識とマナーを身に付けさせる。	B		マナー向上と残食減少を目指す。
1 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	自分自身の言動に責任をもち、きまりや時間を遵守させることで基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	自分自身の言動の重みを感じさせ、よい言葉がけができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	授業や家庭学習を大切にし、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B		学習習慣を確立させ、主体的に取り組む態度をさらに育成する。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	特別活動に積極的に参加することを通して、お互いに認め合い協力し合うことの大切さを実感させる。	A		来年度も特別活動を通して、よりお互いを認め合う態度を育む。
2 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	係活動を充実させ、一人ひとりに役割をもたせることで責任感をもたせる。	A	A	仕事の少ない係などの見直しをする。
		相手意識をもって行動することを意識させることで、共生する上で必要な生活習慣を確立させる。	A		普段の生活の中で、相手意識をもつよう指導・声かけをする。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	家庭学習に取り組ませ、自分で振り返ることのできるよう手帳を使って学習を管理させることで、学習に対する自己調整力を向上させる。	A		クラッシーのポートフォリオを有効活用する。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	部活動・学校行事・生徒会活動等への参加の意味を考えさせ、活動に当たらせる。	A		自治的な活動になるように指導・声かけをする。
		一人ひとりが自分の得意な分野で輝ける場を見つけられるよう声かけをする。	A		来年度も特技披露会などの場を設定する。
3 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	最上級生としての自覚をもてるような声かけを行い、学校行事や学校生活への意欲づけと基本的な生活習慣の確立を目指す。	A	A	様々な学校行事に責任をもって取り組んでいく。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	日々の授業を大切にするとともに、主体的に学習に取り組む態度と、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	A		苦手教科に対する意識の改善を図る。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	将来の進路に向けての情報発信を行い、中学・高校卒業後の進路目標を定められるようにする。	A		進路指導と連携して進めていく。

別紙様式 2 (中)

※ 評価規準：A：大変よくできた　B：よくできた　C：普通　D：やや不十分　E：不十分